



かがやく浜の子

平成30年度3月号

平成30年度重点目標 気づき 考え 行動する子 「自分から みんなで」

「さようなら」は次に進むための節目

NHKのあるテレビ番組で「さようなら」の語源について、取り上げていました。「さようなら」は、白羽小の「相手を思いやる大切な言葉『あ・さ・し・お・ご・は・ん』」の中の一つです。「おはよう」は「お早い〇〇ですね」、「ありがとう」は「有り難い＝めったにない、めずらしい」、「こんにちは」は「今日のご機嫌いかがですか」と、およその意味を知っていたのですが、「さようなら」は深く考えたことがありませんでした。御覧になった方、御存じの方も多いかもかもしれませんが、番組では次のように伝えていました。

- ①「さようなら」は、もともと（そういうことならば）という意味の「さようならば」「さならば」という接続詞だった。
- ②別れの時、「今までは〇〇だったから、さようならば（そういうことならば）、この先は〇〇しよう！」という挨拶をしていた。
- ③「さようならば」の後に続く（別れの）言葉がなくなり、「さようならば」の「ば」も省略され、「さようなら」になった。

日本人は、別れを、いったん立ち止まり確認してから、次のことを進む節目と考えていたのだそうです。さらに、番組では学校での挨拶を例にして次のように紹介しています。

学校から帰る生徒に校長先生が「さようなら」を言うのは、「今日も楽しく過ごせましたね。さよう（そう）ならば、明日も元気で来るんだよ」・・・という感じでしょうか。

言われてみれば、確かに私も、そういう思いを込めて子供たちに挨拶していました。

※

年度末の節目の時期を迎えました。子供たちはこの一年間「気づき 考え 行動する子『自分からみんなで』」を目標に、学習や諸活動に取り組んできました。

1年生は、ぴかぴかのランドセルがいつしか体になじみ、もうすっかり浜の子になりました。春夏秋冬、たくさんの遊びを通して、多くの知恵を身につけました。さようならば、新1年生のやさしいお兄さん、お姉さんになれることでしょう。

2年生は、野菜づくりに奮闘しました。おもちゃランドも大成功させました。九九も一生懸命覚えました。さようならば、3年生で新しく始まるはばたきの時間、理科、社会の勉強にもやる気一杯で取り組めるでしょう。

3年生は、白羽小の公式キャラクターをつくったり、御前崎のよさを伝える写真展を開いたりしました。社会や理科、毛筆、リコーダーなど、初めて習うことにも一生懸命でした。さようならば、4年生として、更に難しくなる学習にも挑戦していけるでしょう。

4年生は、警察署などの見学、海洋体験、ヤギの飼育、タイヤ太鼓など多くの体験を通して学習を深めました。市音楽発表会ではきれいなハーモニーを会場いっぱい響かせました。さようならば、高学年として、6年生とともに白羽小をつくっていけるでしょう。

5年生は、観音山野外学習で、仲間を思いやり協力することができました。6年生を送る会の企画・運営でも一人一人の力を合わせ、感動ある会を創り上げました。さようならば、最上級生として、新しい白羽小学校を引っ張っていけるでしょう。

6年生は、白羽小のリーダーとして、たてわり班活動、あさしおごはんなどを立派に進めました。下級生から信頼される頼もしい存在でした。さようならば、白羽小で学んだことを基に中学校でさらなる成長をすることができるでしょう。

なかよしは、「なかよしカフェ・レストラン」を回を追う度に、グレードアップさせ、コース料理にまで挑戦しました。7人のチームワークが素晴らしかったです。さようならば、6年生は中学校で、下級生は引き続いて、学習や活動に精一杯取り組めるでしょう。

※

地域の皆様、保護者の皆様、一年間様々な場面でお世話になりありがとうございました。特にサポート隊の皆様には、雨の日も風の日も子供たちの登下校を見守っていただきました。白羽小に関わってくださった全ての皆様に心から感謝申し上げます。（文責；校長）

